

# 黄土高原・退耕還林地区における食糧供給チャネルに関する一考察

## — 全国退耕還林模範県である呉起県を例に —

原 裕太・西前 出 京都大学大学院 地球環境学堂・学舎



- **結論**
- 呉起県への周辺地域からの食糧供給があることが確認できた（寧夏の小麦粉・コメの販売，呉起県からの出稼ぎ労働者による仲買行動）
  - 黄土高原・退耕還林地区の食糧供給問題は，より空間的視野を広げた枠組みの中で議論されるべき
  - かつ，住民の「食」への嗜好や生活状況なども考慮した，システム全体で評価される必要がある

■ **背景・目的**

黄土高原

- ✓ 半乾燥気候，世界で最も土壌侵食が激しい
- ✓ 斜面でのアワ，ソバ，ジャガイモ等の自給生産

侵食対策：退耕還林 1999年～

- ✓ 国主導による斜面耕地等への植林プロジェクト
- ✓ 植林実施者への食糧や補助金の支給

➡ 地域で生産が困難なコムギ・コメ中心の食生活へ

退耕還林に対する食糧供給の健全性評価

既往研究における問題の所在

地域内の穀物生産や土地利用にのみ着眼 ➡ 地域の現状が十分に踏まえていない

目的

- ✓ 食糧を介した外部地域との関係を解明
- ✓ 既存研究の枠組みにおける課題を明確化

■ **対象地域**

中国・陝西省延安市呉起県

46.3% ▲

退耕還林で消失した耕地の割合 (1998-2010年)

57.9% ▲

25°以上の急傾斜地が，県の総面積に占める割合

図1. 黄土高原における研究対象地の位置

調査期間 | 2015年9月12日～19日

■ **多様な食糧供給チャネル**

- ✓ どこからコムギ，コメはやってくるのか？
- ✓ どのようにして農村住民の手に渡るのか？

■ **市場を介した地域の結びつき**

方法 市場の観察，政府関係者・住民へのインタビュー

定期市（集市） 場所：呉起県呉倉堡鎮

- ✓ 穀物の売買はみうけられなかった

小麦粉やコメは，スーパーや商店で買う。退耕還林後，市場へのアクセスが増えたと思う。

呉倉堡鎮政府幹部，呉倉堡鎮周官村住民2人，呉起鎮金佛坪村住民1人

常設小売店 場所：呉起県城

- ✓ 外地で収穫，生産された小麦粉とコメが販売されている

図2. 呉起県のスーパーで販売される小麦粉，コメの商品数と産地

小麦粉，コメとも，産地の多くは寧夏。コメに関しては，東北産のものもあるが少ない。

呉倉堡鎮政府幹部，呉倉堡鎮周官村住民2人

■ **出稼ぎ労働者の仲買行動**

方法 出稼ぎ労働者へのインタビュー 呉起鎮金佛坪村

西安市や河南省での出稼ぎの帰りに，**コムギを関中平原など現地の農家から直接買い上げる。**

呉起県の各村では普段から見られると思う。私の村だと**10数人中2～3人**が行っている。2tから5t程度の車で，纏めて持ち帰る。**関中平原のスーパーで小麦粉を買うことも。**

理由は？

呉起県の小売店で小麦粉を買うよりも，関中平原で調達した方が**少し安いから。**

出稼ぎは，どんな仕事を？

運輸業。大体7～8日間ほど出て，呉起県の村に3～4日間戻って休む周期。

関中平原の農村での裏付けインタビュー

場所：陝西省咸陽市武功県閭家村

図3. 武功県におけるコムギ流通の事例

結果 仲買行動を認知している住民が確認された。

なぜ，呉起と関中の売価に差があるのか？

図4. 呉起県と楊陵区における小麦粉(5kg/袋)の価格と産地

■ **寧夏が抱える環境問題と農業**

- ✓ **水資源の需要増加**と気候変化によって**水不足が深刻化**
- ✓ **灌漑のために黄河から過剰に水分を摂取しているため，地下水位の上昇や塩害**が発生している

Xu et al. (2013)